Interview colum

版画工房アーティー 制作の現場から

vol.2

ジクレー版画制作を専門とする版画工房アーティーが、ジクレー版画（デジタル版画）を切り口に、様々なアーティストや画廊をインタビューする本コーナー。
今回は、銀座にある柳画廊の野呂社長に「版画を出版する事」についてお話伺ってきました。

「薫風」２０１１年　技法名：アーカイバル®

銀座柳画廊
×
Artie
FINE ART WORKS

アーティー　柳画廊さんとは、２０１１年に島村信之先生の版画制作のご依頼を頂き、それからのお付き合いですね。初めはどのような経緯で版画を出版されることになったのでしょうか？

野呂　版画出版にはずっと興味はありました。島村信之先生の作品ですと数百万円する原画も順番待ち、年に数点発表される鉛筆デッサンは奪い合いという状態です。

　それなら作品集を作ろうとなって販売したところ、現在まで1万冊以上売れているわけですが、これが「芸術作品」という位置づけだと、やはり満足がいかない。お客様のニーズに応えるとなるとやはり版画の形態が一番適していると感じています。

アーティー　では、ずっと版画工房を探していたのですね？

野呂　そうです。そうしているうちに信之さんから「ぜひここで作りたい」と御社の紹介を受けました。ただ、当時はジクレー版画の過渡期だったこともあり、その品質も玉石混合、まわりの画廊からも「やめておけ」とネガティブな声も多く、出版するまで相当な時間を要しました。

アーティー　実際どのようなことをお調べになったのですか？

野呂　「版画を作ると原画の価値が下がるからやめておけ」と色々なところから忠告を受けたのですね。果たしてそれが事実なのか調査しました。すると、東山魁夷にしても、横山大観にしても、版画化されている作品の原画はものすごく価値が上がっていることがわかったのです。日本ではなぜか、原画を版画化すると、原画の価値が下がると思われることがとても多いのですが、版画化されるという事は、画集の表紙になる事と同じくらい名誉な事なのです。そこの誤解を解きたかった。

　ただ、それも前提があって、「画商が版権管理をきちんと行っている事」そして、「専門の工房が版画を制作している事」この2点が条件です。

柳画廊の一角。島村信之氏の新作版画が並ぶ。

アーティー　アメリカでもそうですけど、「版画化したいから、原画を貸してくれ」というと、すごく原画の所有者は喜びますからね。代表作しか版画にしませんから。

野呂　ジクレー版画に対する反応も、「デジタルはちょっと…」といった声もありました。

　しかし、本式のエッチングや石の版に書き込んでリトグラフを作っている工房は国内外合わせても、ほんの少数しかありません。リトグラフと称していてもいずれも写真製版を取り入れて、デジタルの工程を踏んでいる。そうなると、どんどん技法の境界が曖昧になります。

　それに、実物を見ればわかります。「いいものはいい」と。

対談するアーティー加藤（左）と柳画廊 野呂社長（右）

版画には１枚毎にエディションナンバーと画廊の刻印、サインが入る。

　実際に質のいいジクレー版画に出会って「誰かがやらなくてはいけない」という使命感が湧いてきました。

アーティー　野呂社長が踏み切ってくださったのが、なんとも勇気付けられます。

野呂　ただ制作する工房によって差が大きいのも事実です。

　低いクオリティのジクレーなら、シルクやリトの方が良いと思われる画商も多い。

　そこはアーティーさんのスタッフの技量に関わってくるところですからね、どうぞよろしくお願いします。

アーティー　そのお言葉に襟を一層正す気持ちになりました。今後もジクレー版画制作に邁進していきます。今日はどうもありがとうございました！

（銀座柳画廊にて）

PROFILE

版画工房アーティー

美術専門の版画印刷を扱う「版画工房アーティー」。代表の加藤泉は 1987 年に米ロサンジェルスでシルクスクリーン工房を設立。12 年間アメリカンアートの制作に携わる。2001 年に帰国後、東京に「版画工房アーティー」を設立。アーティー独自のジクレー版画「アーカイバル®」を商標登録。版画を原画と同等に扱い、作家と工房が相互に意見交換することで、互いの想像力の一歩先の表現力を目指している。制作している版画の 8 割以上に、本金箔やエポキシ樹脂加工、エアブラシなどの特殊効果を施し、一般的な「版画」の概念を超える、斬新な表現に果敢に挑戦しつづけている。

東京都港区六本木 7-21-22 セイコー六本木ビル 4F
（国立新美術館 正門 徒歩 1 分）
営業時間：平日 9 時～17 時 30 分　定休日：土日祝日
Tel：03-6721-1850　E-mail：info@artie.co.jp　Web：https://artie.co.jp

銀座　柳画廊

代表の野呂好彦氏は同志社大学を卒業後、「ギャルリーためなが」に入社。1988 年から 91 年まで渡仏。梅田画廊を経て、1994 年に銀座 柳画廊を設立。岡野博、島村信之をはじめ国内外の作品を手広く扱う。
また、画廊巡りやサイトを通じて、今日の美術業界を分かりやすく情報発信している。

【2018 年展覧会スケジュール】
有田 巧 展 5/16～5/31、岡野 博 展 10/5～10/20、福永 明子 展 10/26～11/10、喜多尾ボンタン礼子 展 12/7～12/15

東京都中央区銀座 5-1-7 数寄屋橋ビル 3F
営業時間：平日 10 時 ~19 時　土曜 11 時 ~17 時　定休日：日曜祝日
TEL：03-3573-7075　FAX：03-3573-7076
Web：http://www.yanagi.com